［認知症対応型共同生活介護用］

調 査 報 告 概 要 表

作成日　平成20年4月20日

【評価実施概要】

事業所番号	（※評価機関で記入）4670105214
法人名	社会福祉法人鶴陽会
事業所名	グループホーム　あけぼの
所在地	鹿児島市山田町2019 （電　話）099－275－9330

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27－5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年4月20日

【情報提供票より】平成20年3月24日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　18　年　3　月　20　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	18　人	常勤　14人，非常勤　4　人，常勤換算　16.4 人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	2 階建ての　1 階　～　2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	37,500　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200　円	昼食	300　円
	夕食	400　円	おやつ	100　円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（　月　日現在）

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4	名	要介護2	12	名
要介護3	1	名	要介護4	1	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	87 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	大勝病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホームやケアハウス、乳児院等と同じ敷地内に建てられているために、他事業所を利用している同世代・異世代間交流の機会がある。また町内会で催されているゲートボール大会や文化祭等にも参加しており、利用者の意向や体調にあわせてさまざまな活動に取り組んでいる。職員は利用者となれ合いの関係にならないような距離感を大切にしつつ、利用者の家族のような存在になれるように接しており、職員が利用者に助けられ、利用者ができないところを職員が支援できるような双方向の関わりがもてる関係づくりに努めている。開設して3年目に入っており、今後は地域密着型サービスの事業所としてのホームの在り方を検討し更なる取り組みを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

介護計画の見直しについて、定期的な見直しだけでなく利用者の状態にあわせた随時の見直しの必要性を再度検討してほしい。口腔ケアについては、毎食後職員が声かけを行い、適切に行われている。市町村との関わりについては、日常的な関わりが困難な場合でもホームの現状を知ってもらい共に質の向上に取り組めるような関係づくりのために継続的な働きかけを期待したい。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

全職員で自己評価に取り組んでいる。項目を改めて見直すことにより、反省点や改善点について職員自ら気づく機会となり、改善点について職員同士で検討する契機になっている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

母体法人施設長・民生委員・町内会長・家族会代表が参加し、ホームの現状報告や今後の課題などについて話し合われているが、会議の内容が実際の運営に活かされていない。現状として1年に2回しか運営推進会議が行われていないので、定期的に開催し、運営推進会議で出された意見等については職員と内容を検討し、サービスの向上に活かしてほしい。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

月に一度便りを作成して暮らしぶりを知らせている。個別の健康状態等については、月に1回程度家族が来訪したときに説明したり、電話で連絡し、適切に報告している。また普段から管理者や職員に対して家族が意見を言いやすいように職員のほうから家族に話しかけるように努めており、直接言いにくいケースにも対応できるよう意見箱も準備している。出された意見については職員で改善方法を話し合い、対応している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

町内会で行われるグランドゴルフや文化祭・運動会などに参加し、地域の住民と交流する機会を設けている。散歩の際に挨拶をしたり世間話をする関係もできている。また母体法人が開催する夏祭り等には近隣住民が参加し、ホームにはボランティア等で地元の人々が訪れる機会がある。

調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設当初に事業所独自のものを作り上げているが、地域密着型サービスとしての役割や地域の中で暮らし続けていくことの意義が盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスのひとつとして位置づけられたことにより、グループホームが果たすべき役割や求められるものが変化しつつある。地域密着型サービスを提供する事業所としての理念を今一度検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全員で唱和することで日々忘れないように気をつけているものの、理念に基づいて日々のケアのあり方を考えるような具体的な取り組みができていない。	○	理念を日々忘れないように復唱することは重要であるが、日々のケアにおける具体的な場面に反映させることが必要である。理念を共有し、さらに実践する具体的な取り組みを期待したい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会で行われるグランドゴルフや文化祭・運動会などに参加し、地域の住民と交流する機会を設けている。散歩の際に挨拶をしたり世間話をする関係もできている。また母体法人が開催する夏祭り等には近隣住民が参加し、ホームにはボランティア等で地元の人々が訪れる機会がある。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組んでいる。項目を改めて見直すことにより、反省点や改善点について職員自ら気づく機会となり、改善点について職員同士で検討する契機になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	母体法人施設長・民生委員・町内会長・家族会代表が参加し、ホームの現状報告や今後の課題などについて話し合われているが、会議の内容が実際の運営に活かされていない。また、定期的に行われているとは言いがたい。	○	現状として1年に2回しか運営推進会議が行われていないので、より定期的に開催することが求められる。また運営推進会議で出された意見等については職員と内容を検討し、サービスの向上に活かしてほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者が多忙であることもあり、運営推進会議への出席も困難な状況である。運営上の質問があるときは連絡する時もあるが、普段から市町村と連携がとれている状態ではない。	○	様々な状況の中で市町村と密に連携をとっていくことが難しい状況は理解できるものの、ホーム側から市町村に積極的に働きかけ、ホームの現状を知ってもらいながら共に質の向上に取り組めるような関係作りに努めてほしい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度便りを作成して暮らしぶりを知らせている。個別の健康状態等については、月に1回程度家族が来訪したときに説明したり、電話で連絡し、適切に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員に対して家族が意見を言いやすいように職員のほうから家族に話しかけるように努めている。意見箱も設置しており、直接言いにくいケースにも対応できるよう配慮している。出された意見については職員で改善方法を話し合い、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在職員の交代はほとんど行われていない。母体法人にある特別養護老人ホーム等との職員の異動もない。今後やむを得ず交代する場合のために利用者のダメージを少なくするため方策を検討している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修テーマのアンケートをとり、研修計画を立てて職員の資質向上に取り組んでいる。地域のグループホーム協議会で開催されている勉強会にも積極的に参加している。また外部で行われる研修にも1年に1～2回はすべての職員が参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会で行われる勉強会の際に他の事業所の職員と交流する機会がある。今後は相互訪問についても具体的に計画予定である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人や家族と面談を行い、職員と顔なじみの関係になれるように配慮している。また以前利用していた医療機関や福祉施設からの情報を活用しながら、雰囲気に早く馴染めるように取り組んでいる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の孫や子どもであるかのような親しみをもってケアに取り組むよう努めており、「介護する」「介護される」ような関係にならないよう気をつけている。利用者から職員が助けられたり、教えてもらうことも多々ある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に生活歴や希望・大切にしている思い出や出来事などについて確認している。本人からのききとりが困難な場合は家族に協力を得てできる限り把握できるように取り組んでいる。利用後も思いや意向を聞くことができた場合にはそれをケアに反映させていけるよう努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケース記録に現在の介護計画を貼付し、職員は日々計画に関する意見やアイデアを記録している。それをもとにしながらケアカンファレンスを開催し、担当者会議を開催している。担当者会議には家族にもできる限り参加してもらい、利用者本位の計画を作成できるよう取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状を適切に把握した上で、対応方法を職員全員で検討しているが、見直し時期以前に状態の変化が生じた場合に、計画を見直すことなくサービスが提供されているケースがある。	○	状態の変化に対してケアの注意点等について検討しており、サービスの提供そのものは適切に行われているが、現状に即した計画の見直しの必要性について確認し、実践してほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院支援等が必要な場合は柔軟に対応している。また買い物などの希望がある場合も同様に、できる限り対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医師から、必要な時に適切な医療が受けられるよう支援している。職員が通院に付き添った場合などに医師と話をする機会を設け、必要に応じて連携がとれるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合についての方針について職員間で話題になることはあるが、事業所としての対応方法や方針について十分検討し、それを職員で共有するまでに至っていない。	○	重度化や終末期の対応方法は利用者や家族にとっても大きな関心ごとであり不安を感じやすいものであるから、事業所が対応しうる支援方法をふまえて関係者全体で方針の統一を図るように努めてほしい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誘導の声かけの内容や語調がプライバシーを損ねるようなことがないように職員同士がお互いに気がついた点などを注意しあっている。記録物の保管、秘密保持の徹底についても適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールは決まっているが、利用者のペースやその日にしたいことに配慮しながら対応している。職員側の都合を優先させたりスケジュールを押し付けることがないように気をつけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食事の好みや希望などを聞きながら、献立をたてている。食事の準備は片付けなどに一緒に取り組み、同じテーブルで同じものを食べることにより、食事を大切な楽しみごととし、活動の一環としている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴の曜日や時間帯は決まっているが、それぞれの希望にあわせた支援ができている。好みの入浴剤を使ったりすることでリラックスして入浴を楽しんでもらえるような配慮もなされている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴を活かしながら、趣味や家事、園芸等、利用者一人ひとりが自分に合った役割や趣味を持ちながら楽しく過ごしている。またドライブや散歩、買い物などの外出の機会を設け、気晴らしができるようにも心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩、ドライブ、地域の行事への参加等、外出する機会を設けている。グループホームに閉じこもることがないようにするとともに、ホームの職員や利用者以外の人との交流も大切にしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は利用者の希望により自ら鍵をかける以外は、日中は鍵をかけることなく、利用者が自由に過ごせるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行い、近くの小中学校等にも協力を得られるように働きかけている。夜間帯を想定した訓練も行われている。非常時の備蓄も定期的にチェックしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスがとれた献立作りに気をつけ、一人ひとりの摂取量や水分量は大まかに把握しているが、献立の大体のカロリーや栄養の偏り等について専門的な観点からのチェックがなされていない。	○	個別の残食量や水分摂取について特に注意が必要な利用者のチェックは適切に行われているが、献立について定期的に栄養の専門的な観点からアドバイスを得られるような取り組みを期待したい。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンとダイニングテーブルは対面式になっており、大きくとられた窓から自然の光が入る作りで明るく開放的である。ダイニングテーブルの隣にはソファーで寛げるスペースがとられ、居心地良く過ごせるよう配慮している。また家庭的な雰囲気を大切にしつつ、季節感のある装飾がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ある程度の家具はホームで用意してあるが、利用者は家族の写真や思い出の調度品、使い慣れた化粧品等を持ち込み、それぞれ居心地良く過ごせるように配慮している。居室の入り口にかけてある暖簾も利用者と家族が用意したものであり、細やかな工夫がなされている。		